

まえがき

これだけ社会が複雑となってくると、私たちの生活のなかで起きてくるさまざまなトラブルや紛争を解決する仕組みである民事訴訟と無関係に一生を送ることは難しくなっています。

民事訴訟の仕組みを定める民事訴訟法の基本的な原理、原則の内容とこのような原理、原則が採用されている理由などを理解しないと訴訟の仕組みの理解は困難です。また、民事訴訟の仕組みを理解せずに、法律を勉強しても、生きた法律を理解することはできません。

この訴訟の仕組みである民事訴訟の方法を定める民事訴訟法は決して難しいものではない。家庭の主婦や中学生にも理解できる民事訴訟の解説書が必要です。

本書は、これを読まれた大学教授が「民事訴訟法を、これだけ易しく教えられるのか！！」と感嘆したものである。本書を読まれれば「なあ～んだ。裁判の仕組みって、そういうことだったの～」と、本書を読まれた家庭の主婦が感じられたのと同様の感想を持たれるとともに、民事訴訟の内容の基本を理解され、他の法律の解説本を読まれたり、法律を考えるときに、生きた法律を理解できるようになるでしょう。

第一編「中学生にわかる民事訴訟の仕組み」で訴訟の基本的な構造を説明し、第二編の「高校生にわかる法律的な見方、考え方」において法律的な思考の方法や法律的価値判断の仕組みを解説するとともに、第三編「中学生にわかるお金の貸し借り」において消費貸借における利息金の意味と計算方法等を説明した。付録として「中学生にわかるかんたん計算くん」

Excel ファイルを本書購入者に無償ダウンロードできるようにした。

本書が、中学生、高校生、家庭の主婦そして多くの一般市民の方の目に触れ、民事訴訟の仕組みや法律的な価値判断の仕組みが、一般市民のものとなることを念願しています。

中学、高校から各種の教育機関のテキストないしマニュアルとなることを期待して刊行しました。改善、改訂作業も継続していく予定です。

増補版刊行にあたって

「中学生にわかる民事訴訟の仕組み」は発刊以来10年を経過しても売れ続けており、今なお、民事訴訟法の技術的性格は一般の人の民事訴訟法の理解を困難にし続けているものと思われます。

第4編「刑事裁判の本質的特性」を記載し、民事裁判と比較しながら、刑事裁判の審理構造、法と裁判の関係などの基本を説明して刑事裁判の特殊性を説明し、これにより民事裁判を含む裁判制度への理解を一層深めていただけることを目指しました。

法は、権力者が人々を従わせるための「定め」の時代から、権力者を制約するもの、縛るものへと変遷してきました。法が「定め」の時代から裁判はあり、権力者はその意のままに人々を裁けば良かったのです。しかし、法が権力者を制約するものになってからは、法によって権力者の行為や判断を裁くことが裁判に求められるようになってきたのです。今回の増補で、この法の原点や法の変遷をひもときました。

「法とは何か」ということがあらためて議論される現代社会において、「法の基本」を見つめ直す契機になるでしょう。

大阪弁護士会所属
弁護士服部廣志